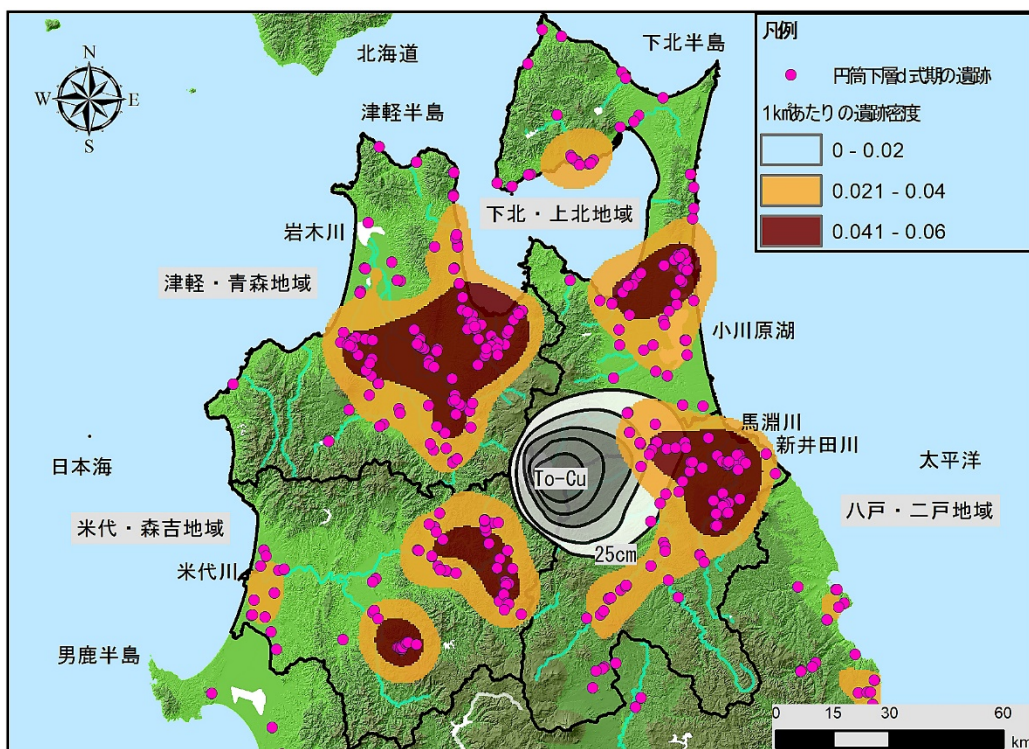


6000 年前の十和田火山噴火が縄文社会に与えた影響 —遺跡の分布と数量の変化からみた評価の試み—

中村 大

(立命館グローバル・イノベーション研究機構 助教：考古学・情報学)



縄文時代前期に降下した十和田中掬テフラ (To-Cu) の直上から円筒土器 (下層 a 式) が発見されることがしばしばあります。このことから、この火山噴火が円筒土器様式あるいは円筒土器文化の成立に深く関わったと理解されてきました。しかし、具体的様相の解明はほとんど進んでいません。本発表では、人間の生活痕跡である遺跡の分布と数量を GIS と統計で解析し、火山噴火と居住活動・人口の変化との関連性を読み解いてみたいと思います。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP : <http://www.ritsume.ac.jp/research/rcppc/>